勤通大基礎理論スクーリングin しずおか

静岡県労働者学習協会静岡支部・静岡市社会科学学習会　　２０２１.１０.６　No.4

人間の社会とその歴史ー第３章

歴史を科学的にとらえる「史的唯物論」

緊急事態宣言が全面解除となり、10月5日に第４回スクーリングがアイセル21において、開催されました。今回の出席者は6名でした。

開会冒頭に、今後のスクーリングの運営について提案がありました。勤通大を主催する労働者教育協会が、第５章「資本主義と搾取のしくみ」、第9章「未来社会を考える」の講義の動画を作製しました。それを活用した学習会を挿入する内容です。参加者の同意を得て、今後次のように日程を変更します。（会場の使用制限がない限り、「毎月第一火曜日」は変更ありません。）

11月	第４章　資本主義経済のしくみ	講師ー鳥居
12月	第５章　資本主義と搾取のしくみ	動画視聴
1月	第６章　現代の資本主義	講師ー小見山
2月	第７章　現代社会と社会変革	講師ー多田
3月	第８章　日本の変革をめざして	講師ー石川
4月	第９章　未来社会を考える	動画視聴

今回の範囲は第１部第3章です。報告者は石川さんでした。レジメのもとづいて約一時間の報告を受けた後、討論で内容を深めました。第３章は、人間の社会と歴史についての「ものの見方・考え方」である「史的唯物論」を学び、社会の特徴や法則性を理解する内容となりました。

以下は、討論時間での質疑・意見の一部です。

○第２章でやった弁証法の考え方が、第3章の中でどう生かされているのでしょうか。

○第３章の中でも、弁証法的見方は入っている。物との関連、社会が動いているという見方がされる。

○第２章で質と量との関連をならったが、歴史のなかでは、生産力（量的側面）と生産関係（質的側面）があって、生産力の向上によってある一定の水準を超えた時点で、生産関係が変わる。これが、弁証法的に歴史を捉えた一つの見方となっている。

○たとえば労働者がストライキをして混乱が起こる。この原因は何なのか。社会全体を運命共同体的

に捉えると、それは弁証法的捉え方とはいえない。社会の中にある矛盾をきちんと捉えるには、人間を集団として捉えて、その集団の最も基本的ものが、労働者と資本家という階級だ。それが資本主義社会では、基本的に対立している。そこで社会の矛盾が見えてくる。それも一つの弁証法的捉え方だ。

○弁証法には、否定の否定という考え方がある。低い生産力の原始共同体の社会が否定をされ、階級社会に代わっていく。そして今私たちは、階級社会を否定し、生産力が高い共同体社会に代えていこうとしている。これが、否定の否定として社会を捉えた一つの考え方といえる。

野党政権と「国家権力」はどうなるの

○国家は国民を支配するための装置というが、野党連合政権が出来た時はどう捉えたらいいのか。政府と支配機構との矛盾がでてくるのかと思うが。

○議会で多数を取ったからと言って、国家を支配した、権力を取ったことにはならないのでは。

○自衛隊はすぐにはなくならないだろう。

○日本国憲法は、国会は国権の最高機関である。憲法上ではあっても、今の世界的力関係のなかで、すぐ自衛隊がクーデターを起こすのはありえない。本質はそうなのだけれども発動しにくい。やるとしたら官僚機構がサボタージュ、マスコミが批判キャンペーンをはるなどだ。それに対して反論をするだろう。

11月は第4章　いよいよ経済学を学びます

資本主義経済はどんな仕組みなのか？

次回勤通大基礎理論コーススクーリング

日時　11月2日(火)　午後6時30分～8時30分

場所　アイセル21　42会議室